



ことがあるのです。そして清浦伯が亡くなられたときは、「中根の金は取るな」といって遺言しておられたのです。元金と利子の不足を加えると大変な金額になるのですが、「それを取るな」といって遺言しておられたのでした。誠に大変な迷惑をおかけして申し訳なく思っているのです。

清浦伯爵は昭和十七年十一月五日九十三歳で亡くなられたのでした。西園寺公爵が亡くなられた後は、国家最高の元勳として貴重なご存在でした。戦争前、御前会議のときは、熱海の別荘から病をおして看護婦付添いで御出席になられたほどでした。告別式のときは大勢の人たちが焼香されたのですが、その中に妹武子がただ一人、涙を流しながら出てきたのを覚えているのです。亡くなられる前、面会謝絶というときに、妹がお見舞いに伺ったとき枕元に呼ばれ、兄さん達に伝言してもらいたいことがあるから速記しなさいといわれて速記させられ、帰る時には三十円、その当時は相当な金額をいただいて帰って来ているのですから、悲しみ、人一倍だったと思われるのです。